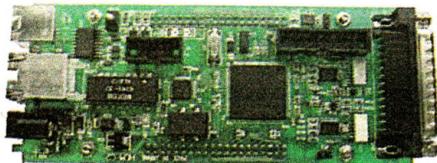


工場内の計測器・設備



ネットで遠隔制御

九州エレ、コスト1/10に

【北九州】 制御機器開発の九州エレクトロニクスシステム（北九州市、松尾勝憲社長）はインターネットを通じ、計測器やプラントなど工場の複数の設備を同時に工場外のパソコンで管理できる制御盤＝写真を開発し

た。遠隔制御システムをつくりながら、遠隔制御を構築を可能にした。制御盤は独自手法のプログラ

ムで工場設備を制御する機能を盛り込んだ。

新製品は「Ls制御ユニット」。工場内に置き、工場内の温度計などの計測器や、空調・エネルギー設備などを遠隔地のパソコンからネット経由で一元的に制御できる。設備に接続するシーケンサーなどの制御機器の代わりに使う。縦六枚、横十四枚の電子基板に工場内の設備などと接続する入力端子と出力端子を各十六個備えた。

従来の十分の一程度のコストで構築できるとい

う。年内にも商品化し、

二〇一〇年三月期に新し

い制御盤で三億円の売り上げを目指す。

トワークを介して通信するたびに、遠隔制御を

しているパソコンのネット回線を指定するIPア

ドレスと、出入力端子を

ドレスと、出入力端子を

独自のアルゴリズムを開発。ネット回線を通じて任意のハードを安定期的に

同時制御するシステムの構築を可能にした。制御

盤は独自手法のプログラ

ムで工場設備を制御する機能を盛り込んだ。

新製品は「Ls制御ユニット」。工場内に置き、工場内の温度計などの計

測器や、空調・エネルギー設備などを遠隔地のパソコンからネット経由で一元的に制御できる。設

備に接続するシーケンサーなどの制御機器の代わりに使う。縦六枚、横十四枚の電子基板に工場内の設備などと接続する入力端子と出力端子を各十六個備えた。

石油化学などの大型プラントの場合、導入コストが数千万円程度かかると

いう。また、設備に搭載されるシーケンサーなど

の制御機器に専用のプログラムを組み込む必要があ

った。